

編集方針	2
対象読者/ 情報開示方針/ 目次	2
世界一の環境経営を目指して	3
報告書の構成と環境経営の全体像	5

特集/環境経営の現場から

ライブオフィスの展開	7
環境負荷の少ない複写機素材の実用化	9
アメリカでのグリーン販売	11

環境経営の考え方

私たちの目指す姿(Three P's Balance)	13
循環型社会実現のためのコンセプト(コメットサークル)	14
超長期環境ビジョンと環境経営の推進	15
2007年度までの環境行動計画と2005年度の成果	17

製品に関する取り組み

製品開発の考え方	19
省エネルギー・温暖化防止	23
省資源・リサイクル	27
汚染予防	31
FOCUS (製品含有化学物質マネジメントシステムの構築)	33

事業所に関する取り組み

省エネルギー・温暖化防止	35
(物流)	39
省資源・リサイクル	41
汚染予防(化学物質管理)	45
(土壌・地下水調査/浄化)	47

環境経営の基盤

環境マネジメントシステム	49
環境経営情報システム	51
エコバランス(環境負荷の把握と目標設定)	53
環境会計	55
グリーンパートナーシップ	59
環境教育/環境啓発	61
環境社会貢献	63
FOCUS	
(NPOとのパートナーシップで進めるグローバルな生態系保全)	69
環境コミュニケーション	71

資料

報告期間	73
報告範囲・主な事業内容	74
報告組織の概要	75
創業の精神・環境綱領・経営理念・環境報告原則	76
サイト別データ	77
リコーグループの環境保全活動の歩み	79
「リコーグループ環境経営報告書2005」のアンケート結果	81
ワード別INDEX	82
第三者検証	83

◎環境経営報告書2006の編集方針

リコーグループは、環境保全と利益創出を同時に実現する「環境経営」を目指しています。当報告書は、環境経営の考え方や推進方法、活動事例、環境会計などをわかりやすく情報開示し、社会とのコミュニケーションを図るとともに、社会からの信頼を得るために発行しています。

●対象読者

リコーグループの環境経営に関する、現在および将来的なステークホルダーの方々を対象読者として編集しました。2006年度の主なトピックスは「特集/環境経営の現場から」として掲載し、読者の関心の高い活動については、「FOCUS」のページを設け、効果的なコミュニケーションを心がけました。

●情報開示方針

グローバルな情報開示

環境問題は国境を超えた問題であり、事業や環境社会貢献活動を行う各国や地域での、地元に着目した活動が重要です。そのため当報告書では、グローバルなパートナーシップに基づく環境経営活動を報告しています。

経済的側面に関する情報開示

リコーグループでは、経営のすべての分野に「環境」の視点を取り入れて、環境経営を実現するための改善を図っています。そのため、各部門やグループ全体の活動による環境保全効果と経済効果を把握し、「環境会計」による情報開示を行っています。